

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社ロンビック
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	三重県四日市市大字塩浜 1 9 1 番地 1
工場等の名称	株式会社ロンビック名古屋工場
工場等の所在地	愛知県名古屋市中村区岩塚町大池 2 番地
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	塩ビコンパウンドの製造
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年5月8日 ～ 令和6年8月6日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場 所） 新事務棟 1 階窓口
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊 子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	0 5 2 - 4 1 1 - 1 2 6 3		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当工場は、地球温暖化対策として、次の事項を実施する。

I S O 1 4 0 0 1 活動に基づく環境施策により、省資源・省エネを図る。

1. 製造工程の見直しによる省資源・省エネの推進
2. 改善提案活動による省資源・省エネの推進
3. 廃棄物の分別、適正処理による省資源・省エネの推進
4. 従業員への環境教育を通しての省資源・省エネの推進

(2) 地球温暖化対策の推進体制

・当工場の I S O 1 4 0 0 1 システム推進体制に基づく

I S O 1 4 0 0 1 推進体制は別紙のとおり

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,665	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	3,665	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量	4,223	t-CO ₂	4,180	t-CO ₂	3,956	t-CO ₂	3,665	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			1.0	%	6.3	%	13.2	%	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの 排 出 量									
削減率（対 基準年度）				%		%		%	%
原単位あたりの みなし排出量									
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和3年度実績に対して、CO₂総排出量が13.2%減少した。
これは、生産量の減少によるエネルギー使用量の減少分が大きい
一方、令和3年度以降に実施した、各種電動機のインバータ化やガスボイラー更新 等による
省エネ効果も表れたものである。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
ISO14001 環境マネジメントプログラム の活用による省 資・省エネ	製造工程の見直し、改善、設備導入による歩 留まり向上、省エネ化を図る。 ・各種電動機のインバータ化 等	温室効果ガスの 総排出量を今後 3 年間で 1 % 削 減する。	1系集塵機電動機インバータ化に より、60,480kWh/年 削減。 2022年10月から実効している。
	ユーティリティー設備更新、使用条件の見直 しによる省エネを推進。 ・ボイラーをより高効率なタイプへ更新 等		ガスボイラー更新により 蒸気使用量 904ton/年 削減。 2023年1月から実効している。
	設備・運転トラブルの削減による歩留まり向 上、省エネ化を図る。 ・設備更新・改善によるロス削減 ・運転・設備トラブル教育の実施		運転・設備トラブル対応のレベルアップ と部署間共有化で類似トラブルの再 発防止対策を推進中。
	改善提案活動による省資・省エネを推進。 ・設備改善による粉漏れ、油漏れの削減、原 料ロスの削減		製造ラインの運転員が中心となった 小集団改善活動として、生産速 度、原料歩留まり、UTT原単位を 向上する活動を推進している。
	廃棄物の分別、適性処理による省資・省エネ を推進。 ・廃棄→リサイクル化への推進 ・廃棄物分別教育の実施 ・廃棄物トラブル事例教育の実施		廃棄物の分別を徹底し、適切処理 とリサイクルの推進で省エネにつな げている。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

環境トラブル事例教育の実施、他場所トラブルの水平展開の推進により、従業員の環境意識向上を図り、製造工程・設備の見直し、改善提案活動 等により、省資源・省エネを推進している。 運転員による設備自主点検により、UTT管理の徹底を継続している。 (漏れ、ロスのチェック)
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

特記事項なし
